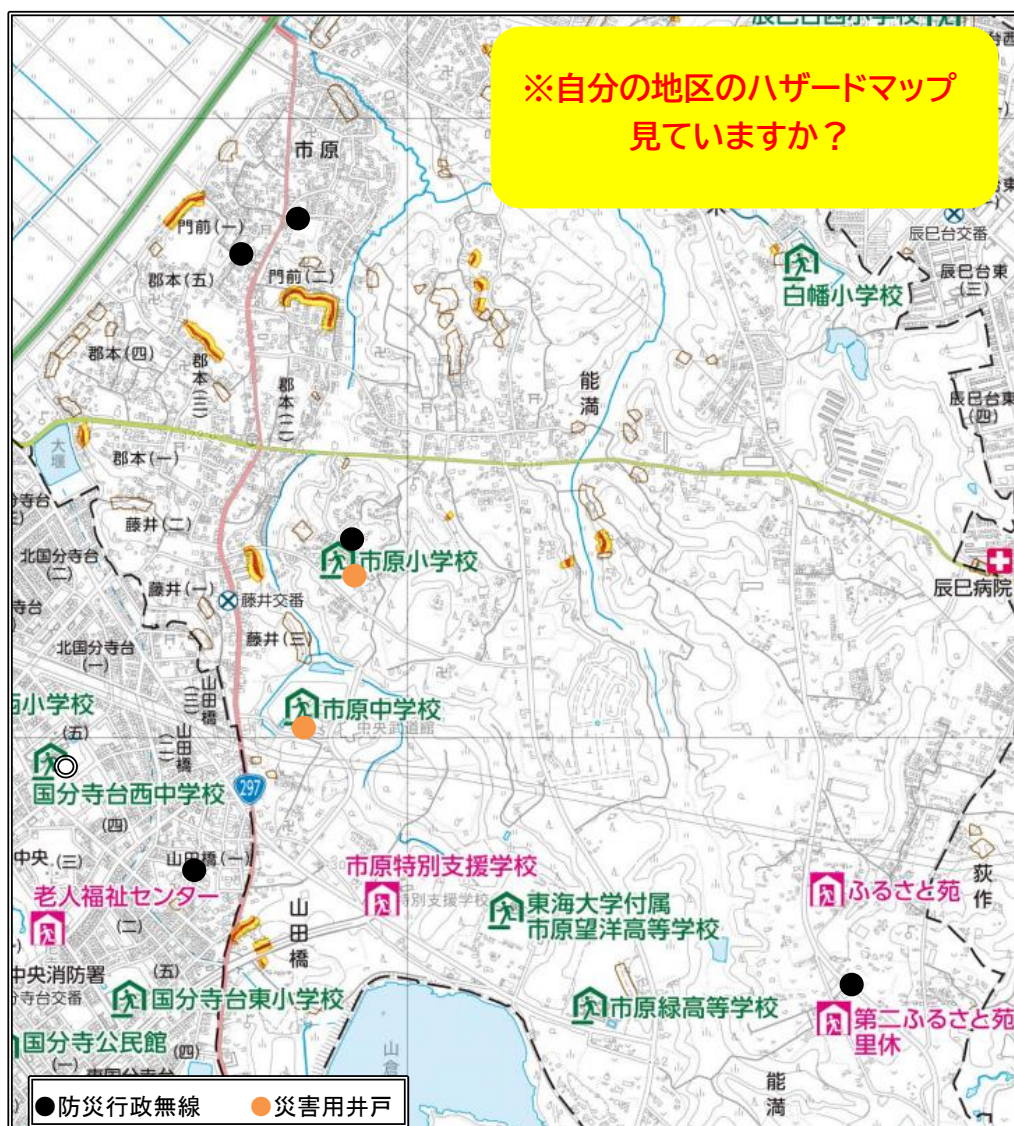


市原小学校区 地区防災計画



※自宅周辺の災害リスクを知っておくことが大切

令和5年3月

「誰一人取り残さない防災いちばら」

市原小学校区地区防災計画策定委員会
(市原小学校区小域ネットワーク)

市原小学校区 地区防災計画

目 次

i .現状と課題	1
1. 計画対象地区の範囲	1
2. 基本的な考え方.....	2
2.1 基本方針	2
2.2 活動目標	2
3. 地区の特性.....	3
3.1 自然特性	3
3.2 社会特性	6
ii .自助の推進	7
4. 防災活動の内容.....	7
4.1 平常時の活動.....	7
4.2 災害時の活動.....	12
iii .共助の推進	13
5. 防災活動の内容.....	13
5.1 防災活動の体制.....	13
5.2 平常時の活動.....	14
5.3 発災時の活動.....	16
iv .計画の運用と管理	19
6. 実践の検証	19
6.1 防災訓練の実施と検証.....	19
6.2 防災意識の普及啓発.....	19
6.3 地区防災計画の見直し.....	19
7. 今後の活動予定.....	20

巻末資料 （令和 2 年度実施アンケート結果）

i. 現状と課題

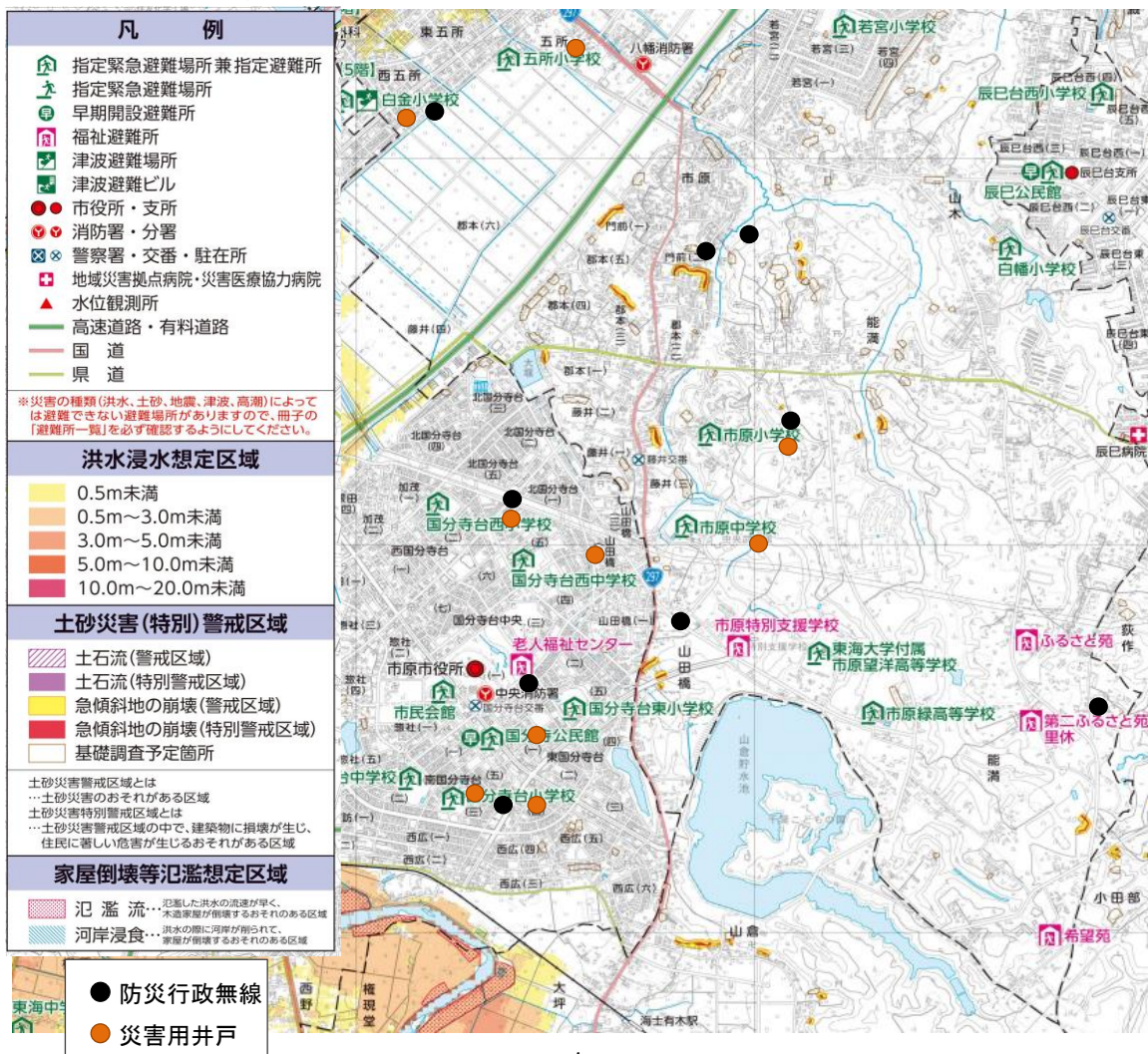
1. 計画対象地区の範囲

1.1 地区の範囲

- ・対象地区は市原小学校区とします。
- ・地区内で活動する町会は、郡本、門前、市原、白幡台、新市原、竹ノ内、和泉、日の宮、椿森、阿須波台、大宮、ライフ郡本、あさひヶ丘、影山、蟬尻、能満千草、末広、東宿、能満、藤井、山田橋、郡本市営住宅、若潮、天神台、宮の前、能満宮の下、能満東、緑、四辻、能満分区の30町会です。

1.2 地区の概要

- ・中南部が台地とこれを刻む谷からなります。
- ・地区中央を国道 297 号が南北に、地区北部を辰巳通りが、地区中央を主要地方道五井本納線が東西に、地区南西部を稲荷台通りが通ります。
- ・国道 297 号沿いの台地に戸建住宅・農地が混在、一部で住宅が密集し、街区は未整備、地区内の道路は狭くなっています。



2. 基本的な考え方

2.1 基本方針

- ・令和元年の台風第 15 号からの一連の災害により、本地区も大きな被害を受けました。本地区も停電や断水、土砂災害の被害があり、多くの避難者が避難する事態となりました。
- ・この災害を通じて、自助・共助による平常時からの事前の備え、災害時における地域の支え合いの必要性を実感しました。
- ・以上の背景を踏まえ、基本方針を以下のとおり設定します。

誰一人取り残さない防災いちばら

2.2 活動目標

- ・基本方針を達成するために、具体的な活動目標を設定します。下記に示す事項を特に重要な本地区の行動指針として、自助・共助の推進に取り組みます。

(1) 自助の推進（各家庭での災害への備え）

- ①生活必需品の備蓄の推進
- ②家族の安否確認方法の確認
- ③避難場所と避難経路の確認

(2) 共助の推進

- ①近所との顔の見える関係づくり
- ②「出来ることを、出来る範囲で、出来るときに」の心がけ
- ③各町会で必要な備蓄品の確保
- ④各町会で避難場所や避難経路の確認

3.地区の特性

3.1 自然特性

①地区の歴史・活動

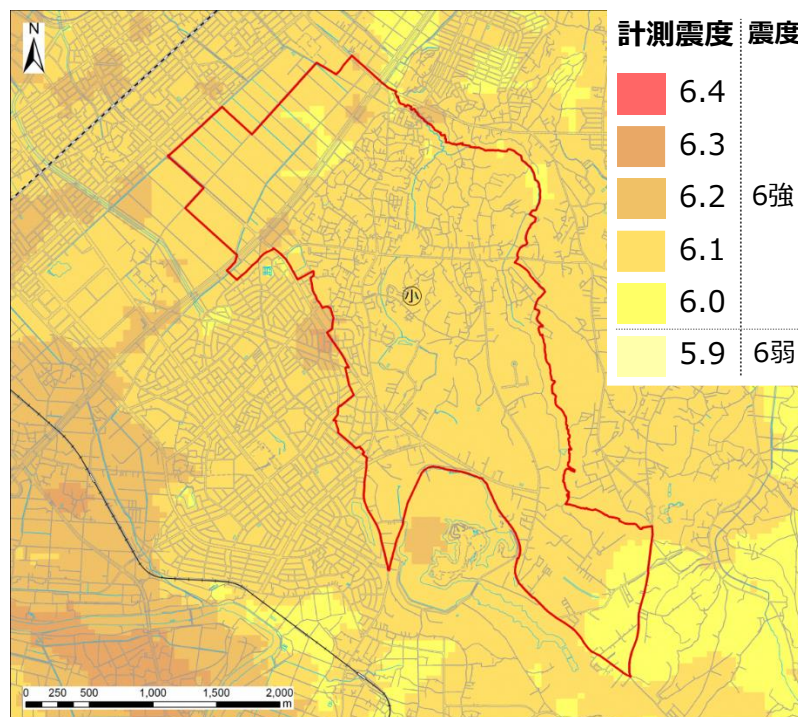
本地区は、市の市街地部に位置し、台地の突端に位置します。行基伝説や多くの石造物が伝わり、古代から多くの人が行き交う市原発祥の地です。また有力な上総国府推定地として注目されています。市原小学校は、1907年に市原尋常小学校として開校し、創立110年を超える伝統ある小学校です。

地区の北部は農地、中央部は住宅地としての土地利用がされていて、市原小学校周辺や南部には自然的土地利用が残っています。

②地震被害予測結果

千葉県北西部直下地震を想定した場合、本地区においても、一部で建物被害などが想定されます。

【震度予測図】（市防災カルテより）



※短・中期防災リスク対策用地震による震度分布

【千葉県北西部直下地震の地震被害想定】（市防災カルテより）

		市原小学校区	市原市
想定震度		震度6強	震度6強（最大）
建物被害	全壊	17棟	880棟
	半壊	187棟	5,000棟
火災被害数	焼失棟数	0棟	210棟
人的被害 (冬の18時、風速8m/sの場合)	死者	0人	20人
	重傷者	1人	60人
	軽傷者	22人	620人
避難者	避難所（最大）	265人	11,500人
	避難所外（最大）	397人	17,200人

③主な災害履歴・災害危険性の評価

【千葉県東方沖地震（1987年12月17日午前11時頃）】

- ・千葉県東方沖（北緯35度21分、東経140度29分、一宮沖20km、震源の深さ58km）でマグニチュード6.7の地震が発生。
- ・山武郡、長生郡、市原市を中心に被害。死者2名、負傷者144名、住家全壊16棟。

【台風3号（平成12年7月7日）】

- ・道路の冠水

【大雨（平成27年9月10～14日）】

- ・土砂崩れ、道路の冠水

【台風15号（令和元年9月7～9日）】

令和元年9月9日、強い勢力（約960ha）を保ったまま、午前5時前に千葉市付近に上陸後、千葉県から茨城県を北東に進み、関東の東の海上に進んだ。

9月8日10時から9月9日24時までの総雨量分布は、市原市全域で120mm以上の降水であり、内陸部ほど多かった。また、辰巳台では9日午前3時に風速32.1m/秒を記録し、その後さらに強まった可能性がある。本地区では、停電及び停電による断水が9/9～9/16あたりまで続いた。

【10月25日大雨（令和元年10月25日）】

令和元年10月24日から26日にかけて、東シナ海で発生した低気圧が太平洋沿岸に沿って進み、東日本から東北地方の太平洋沿岸を中心に大雨となり、市内全域で180mm以上の大雨となった。郡本三丁目自宅の裏山に積んであった重さ1トンを超える土のうが土砂とともに崩れ落ち、自宅敷地に溜った水を逃がすため作業を行っていた50代の女性が自宅外壁との間に挟まれた。その後、付近の住民と消防隊により救出されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。

④災害危険性の評価

項目	特徴
土砂災害	土砂災害警戒区域等が北部に分布している
水害	内水氾濫の実績がある
地震	昭和 56 年以前の木造住宅が約半数を占めている
液状化	川沿いを中心に液状化しやすい地形がある
避難	避難所・避難場所が周囲より高い場所にあり、避難時に坂を上る必要がある。
医療・救護	地区内に病床のある医療機関なし

⑤避難所・避難場所

指定緊急避難場所及び指定避難所	
名称	種別
八幡公民館	早期開設避難所（洪水、土砂災害の警戒時に早期に避難する方々が滞在する施設）
国分寺公民館	
三和コミュニティセンター	
辰巳公民館	
市原小学校	一次避難所（災害で住居を失った方々が避難生活を送る施設）
市原中学校	
市原緑高等学校	二次避難所（避難生活者が多く、一次避難所の収容人数を上回る場合に、追加で開設）
東海大学付属市原望洋高等学校	

※ 早期開設避難所は本計画対象地区の近隣避難所を記載。

※ 本計画による避難所運営委員会は、市原小学校で避難所運営を行うことを基本としますが、今後は市原中学校でも避難所運営を行える体制を構築していきます。

地域自主避難所
郡本会館
藤井町会会館
山田橋会館

3.2 社会特性

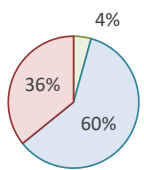
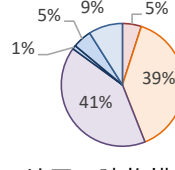
①人口及び建物について

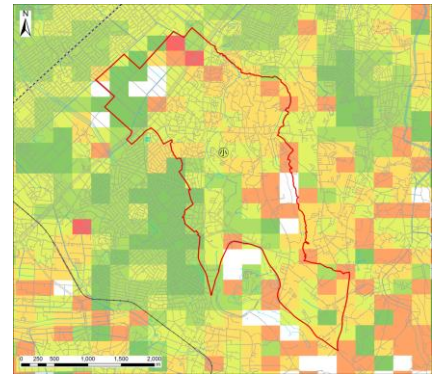
人口はほぼ横ばいで推移しており、令和4年で11,251人、65歳以上の人口比率は、令和4年で35.8%となっています。市原市の65歳以上の人口比率より高くなっているため、高齢化へ対応を進めていく必要があります。

また、旧耐震である昭和56年より前に建てられた木造建築が、1,932棟（44.1%）も存在しており、耐震診断や耐震補強などの対応を進めていくことが求められています。

<人口と建物情報（人口：R4.10.1、建物：H30.1.1現在）>

<旧耐震木造建物率>

人 口	0～6歳	486人 (4.3%)	 <p>地区の人口構成</p>	
	7～64歳	6,741人 (59.9%)		
	65歳～	4,024人 (35.8%)		
	合計	11,251人		
	世帯数	5,511世帯		
世帯人員		2.04人/世帯	 <p>地区の建物構成</p>	
65歳以上の人口比率		35.8%		
75歳以上の人口比率		19.5%		
建 物 棟 数	木造	昭和35年以前		233棟 (5.3%)
		昭和36～55年		1,699棟 (38.8%)
		昭和56年以降	1,818棟 (41.5%)	
	非木造	昭和45年以前	43棟 (1.0%)	
		昭和46～55年	198棟 (4.5%)	
合計		4,379棟		



※旧耐震木造建物率：メッシュ内の建物総数に対する旧耐震木造建物の割合

※上記は市原小学校区の数値。区域が「○○の一部」となっている町丁目(西野谷、郡本など)は人口すべてを加算しているため、実態より多い可能性があります。

ii. 自助の推進

4. 防災活動の内容

4.1 平常時の活動


事前に準備しておく、災害時にあわてずに行動することができ、安全に避難したり、在宅避難等のより平常時に近い生活を送ることができます。各自で取り組むべきことを確認し、優先順位をつけて行動することで災害に備えます。

1

家庭内での災害に対する備えの推進

- ✓ 地震に備え、家具などの転倒・落下を防止しましょう。
- ✓ 台風 zu 備え、屋外のごみ箱等の飛散防止や自宅近くの U 字溝の清掃を行いましょう。
- ✓ 火災に備え、消火器や防火用品を準備しておきましょう。
- ✓ 自宅で避難が可能な場合、自宅での避難生活に備えましょう。
- ✓ 家庭事情に応じた備蓄品・数量を決め、備蓄しておきましょう。
- ✓ 携帯電話は常に充電し、ポータブルバッテリーや電池等を備蓄しておきましょう。

備蓄品 (3日以上は自力で生活できるように準備)

- | | |
|--|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 食品(レトルト食品、アルファ米、缶詰など) | <input type="checkbox"/> カセットコンロ |
| <input type="checkbox"/> 飲料水(一人1日3リットル程度) | <input type="checkbox"/> ラップフィルム |
| <input type="checkbox"/> 給水用ポリタンク・給水袋 | <input type="checkbox"/> 洗面用具 |
| <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー・ウエットティッシュ | <input type="checkbox"/> 工具セット |
| <input type="checkbox"/> 紙皿・紙コップ・割り箸 | |
| <input type="checkbox"/> ビニール袋 | |
- 

乳幼児・高齢者がいる家庭

オムツ 粉ミルク 液体ミルク 常備薬

女性の場合 生理用品

家具の転倒、落下を防ぐポイント

タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。
二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



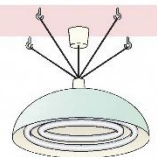
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上の方に置く。
扉が開かないように止め金具をつける。



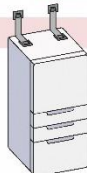
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。
蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



冷蔵庫

転倒防止器具で壁に固定する。



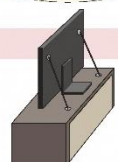
ピアノ

脚にピアノ用の転倒防止器具を。



テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く
(家具の上はさける)。

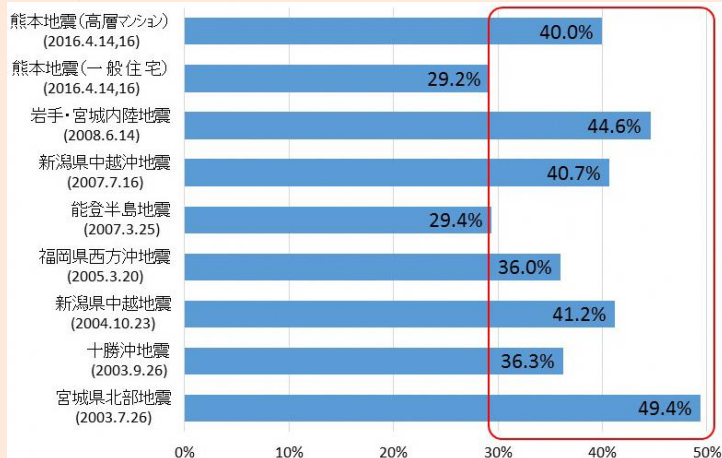


家具転倒対策の重要性

近年発生した熊本地震などでは、高層マンションで4割、一般住宅でも3割近くの人が家具類の転倒・落下・移動が原因でけがをしています。阪神・淡路大震災においても、77%が窒息・圧死で亡くなっており、家屋の耐震性強化と家具転倒防止がまず重要です。

地域の防災力を高めるために、まず自分の命をしっかり守る対策をしましょう。

近年発生した地震における家具類の転倒・落下・移動が原因のけが人の割合（消防庁）



2

災害時の避難や行動のルールを事前確認

- ✓ 避難に備え、非常持ち出し品を準備しておきましょう。
- ✓ 家族で避難場所や安否確認方法を決めておきましょう。
- ✓ 指定避難所等への移動が難しい人は、自宅での避難や親戚・近所の人との事前連絡など対策を取りましょう。
- ✓ 災害時の避難場所を確認しておきましょう。
- ✓ 自宅での安否確認に必要なもの（（仮）無事ですボード・タオル等）をすぐに掲示できるようにしておきましょう。

非常時持ち出し品 (とっさの場合に持ち出せるようにリュックサックにつめておきたい)

- | | | |
|--|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 現金 | <input type="checkbox"/> アメ・チョコレート | <input type="checkbox"/> 乾電池・モバイルバッテリー |
| <input type="checkbox"/> 保険証 | <input type="checkbox"/> 栄養補助食品 | <input type="checkbox"/> ライター・マッチ |
| <input type="checkbox"/> 預金通帳 | <input type="checkbox"/> 飲料水 | <input type="checkbox"/> 下着・靴下・タオル |
| <input type="checkbox"/> 印鑑 | <input type="checkbox"/> 缶切り | <input type="checkbox"/> 防寒用ジャケット・雨具 |
| <input type="checkbox"/> 免許証 | <input type="checkbox"/> レジャーシート | <input type="checkbox"/> 長袖・長ズボン |
| <input type="checkbox"/> 救急箱・除菌シート・消毒液 | <input type="checkbox"/> 防災の手引き | <input type="checkbox"/> 厚手の手袋・マスク |
| <input type="checkbox"/> 胃腸薬・便秘薬・持病の薬 | <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ | <input type="checkbox"/> 携帯用カイロ |
| <input type="checkbox"/> 食品 | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> ヘルメット・防災ずきん |



- | |
|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> カッター |
| <input type="checkbox"/> 生理用品 |
| <input type="checkbox"/> 歯ブラシ |

特に用意しておきましょう！

- ✓ 停電に備えて、乾電池・バッテリーを用意しておきましょう！
- ✓ カセットコンロとガスボンベを用意しておくとも便利！
- ✓ 簡易トイレやおむつ等のトイレ対策をしておきましょう！
- ✓ カードなどが使用できないことがあるので、現金も用意しておきましょう！
- ✓ ペットのえさや避難用のケージ等も備蓄しておきましょう！

3 地域での安否確認について

- ✓ 日頃から近所の人たちとコミュニケーションをとるようにしましょう。
- ✓ 近所の方との連絡先、連絡方法などを話し合っておきましょう。
- ✓ 地域のイベントや防災訓練などに積極的に参加しましょう。
- ✓ 自宅での安否確認に必要なもの（（仮）無事ですボード・タオル等）をすぐに掲示できるようにしておきましょう。
- ✓ ご家族の避難行動に不安や困難を抱えている方は、「市原市避難行動要支援者名簿」への登録を検討しましょう。

4 災害時の情報ツールの確認・習得

- ✓ 市原市の情報発信メールを事前に登録しておきましょう。
- ✓ 市原市防災ラジオの活用など、情報収集の方法を確認しておきましょう。
- ✓ 自分の地区の防災計画やハザードマップなどを確認しておきましょう。

市原市情報配信メール

防災行政無線の放送内容をパソコンや携帯電話等を利用して、メールで配信しています。



<登録サイト>

<https://service.sugumail.com/ichihara/>

Yahoo! 防災速報

「Yahoo!防災速報」を活用し、自治体からの緊急情報を含む防災情報の配信を行っています。

For Android



For iPhone

災害伝言ダイヤル・災害用伝言板

震度 6 弱以上の地震などの大きな災害が発生したときに、被災地の方が「171」の番号をダイヤルすると、自宅の電話番号あてに音声による安否情報を録音することができ、電話番号を知っている方であれば、全国から再生ができます。

<災害用伝言ダイヤル（171）案内サイト>

<https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>



防災行政無線の電話音声案内サービス

防災行政無線の放送内容を、電話で確認できるサービスです。

«フリーダイヤル»

0120-899-890

<放送内容の確認サイト>



<https://ichihara-city.site.ktaiwork.jp/>

！ 5段階の警戒レベル

市が出す避難情報と国や県が出す防災気象情報

洪水や土砂災害、河川の氾濫などの際に、5段階の「警戒レベル」を用いた高齢者等避難や避難指示などの避難情報を発信します。



警戒レベル5【緊急安全確保】、警戒レベル4【避難指示】または警戒レベル3【高齢者等避難】が発令された場合は、避難行動をとりましょう。

警戒レベル	気象や避難の情報
大 5	緊急安全確保 (市原市が発令)
~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~	
<b>4</b>	<b>避難指示</b> (市原市が発令)
<b>3</b>	<b>高齢者等避難</b> (市原市が発令)
<b>2</b>	<b>大雨注意報 洪水注意報</b> (気象庁が発表)
<b>1</b>	<b>早期注意情報</b> (気象庁が発表)

※必ずこの順番で発令されるとは限らないので注意してください。  
 ※これらの情報が発令されていない場合でも、身の危険を感じる場合は避難を始めてください。  
 ※感染症のリスクを避けるためにも、親戚や知人の家など、避難所以外の場所への避難も検討してください。

16

# 🕒 わが家の

事前の確認	● 浸水する深さ ( ) ● 最寄りの避難所 ( )
<b>いつ</b>	
周囲の状況 (例)	名前
外は身の危険を感じるほどの風雨が吹き荒れています。すでに河川は氾濫や土砂災害などが発生している状況です。	(記入例) ● 2階へ避難
<b>災害発生!</b>	
市が避難指示(警戒レベル4)を発令しました。今後、気象庁が <b>特別警報</b> を発表する可能性が高まります。気象庁が <b>土砂災害警戒情報</b> を発表しました。	(記入例) ● ○○小学校へ避難
 市が <b>高齢者等避難(警戒レベル3)</b> を発令しました。気象庁が <b>大雨警報</b> を発表しています。雨と風がかなり強くなりました。排水しきれない雨水が道路に溜まっています。	(記入例) ● 開設されている避難所を確認
猛烈な台風が関東を直撃する予報がでています。気象庁が <b>大雨注意報</b> を発表しています。	(記入例) ● 持出品の準備
 今後、気象庁が <b>警報</b> を発表する可能性が高まります。	
数日後に猛烈な台風が接近する可能性があるようです。まだ周りは晴れています。	(記入例) ● ハザードマップで自宅の災害リスクを確認

# 『マイ・タイムライン』

「いつ」「だれが」「何をするのか」を  
時間ごとに整理しよう!

) m      ●土砂災害の危険性(有・無)  
 ) までの距離(                      ) m と時間(                      ) 分

\\ 台風が来てからではなく、  
事前に対策を考えよう! //

## だれが      何をするのか

名前	名前	名前	とるべき行動(例)
●	●	●	<b>命を守る最善の行動</b> <b>洪水の場合</b> ・自宅の少しでも浸水しにくい高い場所へ移動したり、近隣の高く堅牢な建物へ移動 <b>土砂災害の場合</b> ・崖や沢から少しでも離れた部屋へ移動したり、近隣の堅牢な建物へ移動
●	●	●	<b>全員避難</b> <b>避難所などの安全な場所へ行くとき</b> ・避難所や、近隣のより安全な場所(親戚・知人宅)へ避難 <b>自宅で避難するとき</b> ・安全な部屋へ移動
●	●	●	<b>高齢者等は避難、他の住民は準備</b> ・開設されている避難所を確認 ・近隣の要配慮者への声掛け
●	●	●	<b>避難行動の確認</b> ・自主避難の検討 ・避難方法を確認 ・非常時持出品を準備 ・大切なものを高い所へ移動
●	●	●	<b>心の備えを高める</b> ・ハザードマップで自宅の災害リスクを確認 ・備蓄食料の確認、買い出し ・台風の進路と危険な時間帯を確認 ・家族の行動予定を確認 ・強風への対策 ・携帯電話の充電、車のガソリンを入れる ・避難情報の入手方法を確認 ・止水板や水のう、土のうを準備

## 4.2 災害時の活動

災害が起こった時、活動する内容を確認しましょう。

### <震災時>

・各自、身を守る



・安全な場所へ移動する。  
・余震等に備えて外へ出る。  
等



・家族の安否確認を行う。  
・近隣へ向けて安否表示をする。

**大丈夫!**

・避難する方、防災活動を行える元気な方は避難場所へ向かう。  
・被害状況を収集する。



### <風水害時>

報道等により台風等が接近すると判明した後

**注意報等が発令された時**

- ・テレビ等から情報収集を行う。
- ・物が飛ばされないように片付け等を行う。
- ・在宅避難で問題ないか検討する。避難が必要な場合は、準備を行う。
- ・地区外への避難を含め、避難する場所を検討する。避難が必要なときは、事前に避難する。

**地区内の避難所が開設された時**

- ・在宅避難が危険と判断した場合は、必要なものを持って避難を開始する。

- ・何ごともなくても、「大丈夫」のサインをしっかりと表示しましょう！
- ・家族、親族や友人等への安否確認は、伝言ダイヤル(171)を積極的に利用しよう！
- ・被害状況の把握は、防災ラジオを活用しよう！
- ・積極的に地区のリーダーとして、安否確認や避難支援を行いましょう！

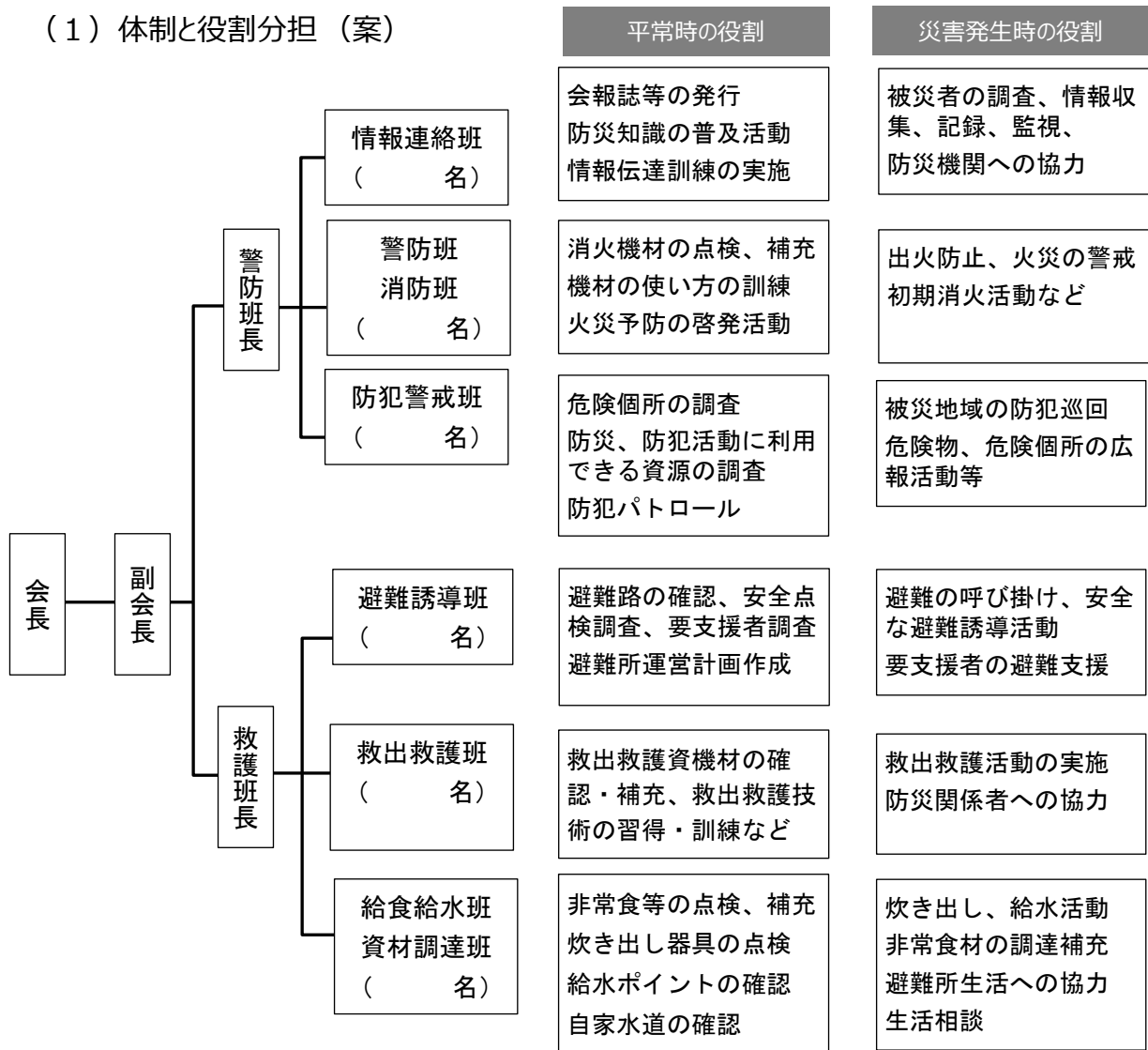
# iii. 共助の推進

## 5. 防災活動の内容

本計画対象地区の共助の推進においては、下記に記載する内容について各町会・自治会が主体となって取り組みます。

### 5.1 防災活動の体制

#### (1) 体制と役割分担 (案)



※この組織図は地域の自主防災組織が共同して組織されるもので、個々の自主防災組織の全面的な協力が必要です。また、自主防災組織が結成されていない町会及び未加入の住民の扱いはどのようにするかは、今後の協議の必要があります。

※役員構成については、各自主防災組織より選出しますが、人数については平等に選出します。

## 5.2 平常時の活動

### 1 地域のコミュニティづくり

- ✓ 地域でイベント(集いの場、訓練など)を開催し、関係者の顔が見える関係を構築します。
- ✓ 平常時からの近所づきあいを大事にし、困った時に助け合う関係を築きます。
- ✓ 日頃から避難経路をみんなで歩き、危険な場所がないか確認します。

### 2 安否確認の方法と手段の準備

- ✓ 町会内での役割分担を決めておきます。
- ✓ 日常的に町内会の人々の状況を把握しておきます。
- ✓ 町会の連絡網を整備し、基本的な連絡体制を確保します。
- ✓ 情報を共有できる場所(掲示板)を決めて活用します。
- ✓ 安否確認用の名簿を作成します。
- ✓ 行き先プレートを作成して、玄関先など分かるような所につけるようにします。
- ✓ (仮称)無事ですボードを作成・配布します。
- ✓ 在宅避難者への対応を考えておきます。

### 3 避難誘導の体制づくり

- ✓ 地域住民で助け合える体制を話し合っておきます。
- ✓ 事前に避難所までのルート、危険な箇所を調査しておきます。
- ✓ 避難経路のマップ作りをして地区に配布します。
- ✓ 早めの避難に向けた普及・啓発、情報発信を行います。

### 4 要配慮者への対応

- ✓ 災害時に、子どもや高齢者・障がい者、持病がある人などの要配慮者に対して、対応する担当者を決めておきます。
- ✓ 要配慮者の避難行動などの情報について、市が配布する「避難行動要支援者名簿」等を活用し、町会単位で安否確認用の名簿を作成します。
- ✓ 外国語を話せる方をあらかじめ把握し、協力をお願いします。

## 5 備蓄の整備

- ✓ 地域自主避難所に食料品、飲料水の備蓄をします。発電機を用意します。
- ✓ 町会等でチェックシートを作成し、備品のチェックを行います。
- ✓ 在宅避難者への食料配布や物資補給方法を決めておきます。

## 6 避難所開設への備え

- ✓ 地域内での避難所運営の基準を決め、避難所運営マニュアルを作成します。
- ✓ 事前に本部長や必要な役割を決め、組織図を作成します。
- ✓ 事前に地域内の医療従事者を把握しておきます。感染防止対策用品や医療品を準備します。
- ✓ 避難所が満室の時、使える教室などを事前に決めておきます。
- ✓ 避難所の感染症対策や防犯・治安維持のための対策・役割を徹底します。

## 7 自主防災組織との連携

- ✓ 自主防災組織の活動状況を把握しておき、災害時に連携できるようにします。
- ✓ 町会と自主防災組織の合同での防災訓練の実施など、平常時からコミュニケーションを取っておきます。

## 8 訓練の実施

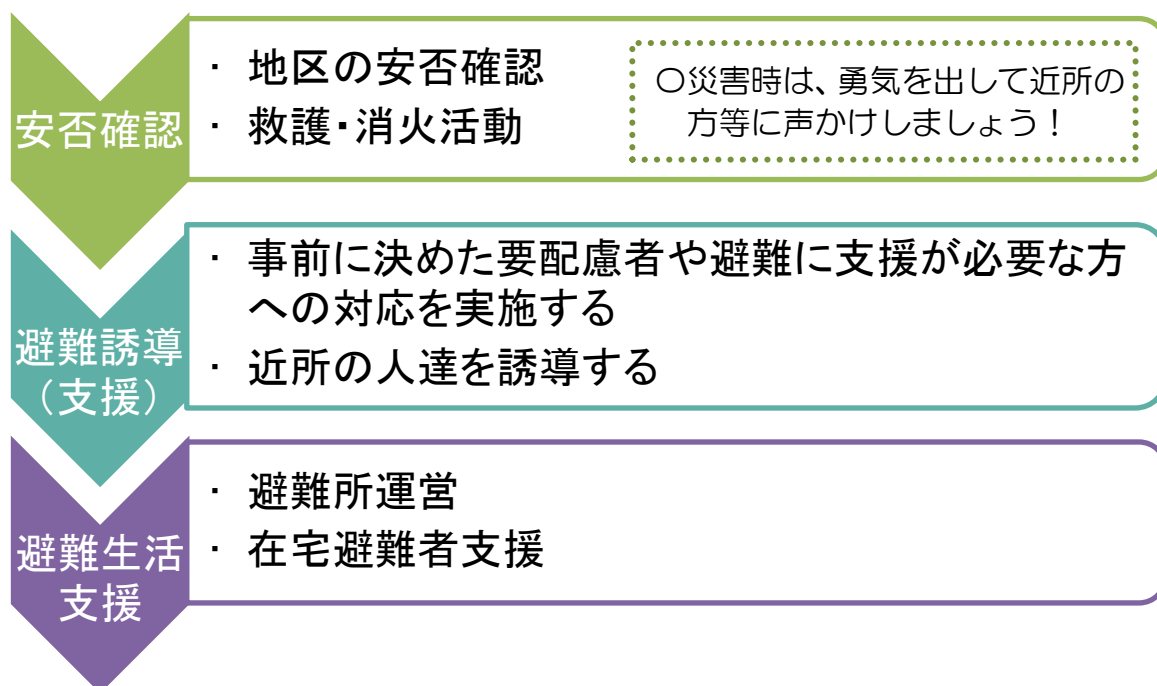
- ✓ 地区全域を対象とした避難訓練を年 1 回を基本として、定期的かつ継続的に実施します。
- ✓ 訓練は、災害の種類や発生時間帯など様々な状況を想定して実施します。
- ✓ 訓練にあたっては行政や関係機関との連携を確認します。

## 9 町会未加入者への対応

- ✓ 地域内の様々な媒体を活用し、町会未加入者に対しても、地区防災計画や地域の防災情報の周知活動に取り組みます。
- ✓ 地域のイベントやお祭りにあわせて、防災マップや防災活動について周知します。
- ✓ 町会未加入者も含めた安否を把握するための方法と役割分担を決めます。

## 5.3 発災時の活動

### (1) 初期対応



### (2) 避難生活時の活動・協力

#### 1 避難所運営について

- ✓ 事前に決めた役割分担や組織図を基に行動します。
- ✓ 避難所運営マニュアルに基づき避難所運営を行います。

#### 2 避難所の生活スペースの確保とルール設定

- ✓ 速やかに避難者名簿を作成できるよう準備します。
- ✓ 事前に決めた配置図のとおり生活スペースを確保します。
- ✓ 高齢者、障がい者など要配慮者の場所の確保に配慮します。
- ✓ ペットの避難については、市の取り扱いにもとづき対応します。

### 3 在宅避難者への対応の検討

---

- ✓ 避難所のスペースが限られることから、在宅避難についても周知、啓発を行います。
- ✓ 在宅避難者の名簿作成や連絡方法を決めておきます。
- ✓ 食料等の物資提供についてのルールを決めておきます。

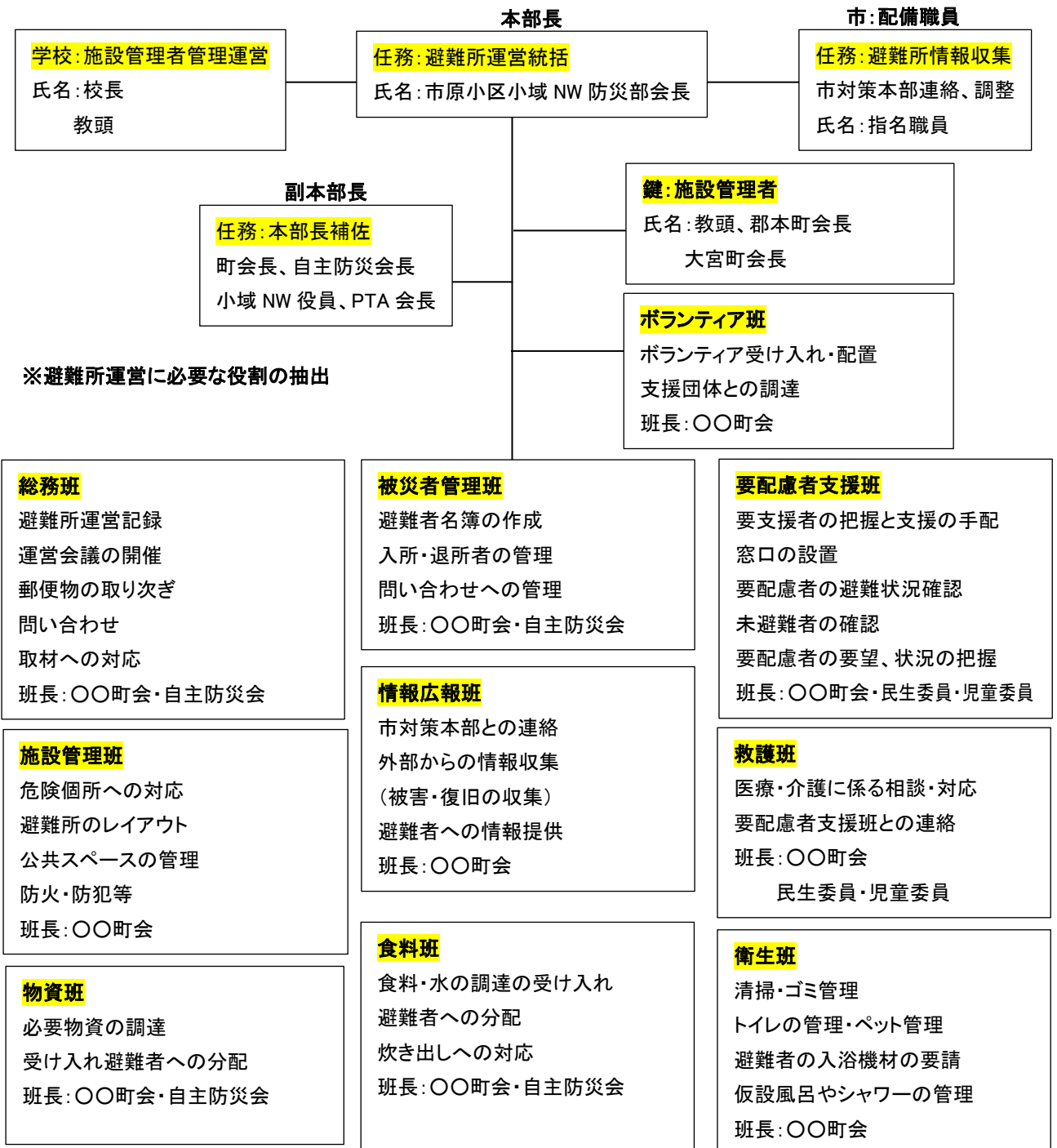
### 4 被災者の健康管理、安全な避難生活のための環境づくり

---

- ✓ 避難生活時において、体操の実施やコミュニケーションがとれる環境づくりに取り組みます。
- ✓ 避難所の感染症対策や防犯・治安維持のための対策、見回りなどを実施します。

※学校管理者、市配備職員と適宜連携をとります。

## ●避難所の運営体制 市原小学校区避難所運営委員会組織図(案)



※詳細な役割分担については、今後地区内での協議や訓練を踏まえて決定します。

※災害時は本部長の指示のもと、適宜役割分担を行う場合もあります。

## iv.計画の運用と管理

### 6.実践の検証

#### 6.1 防災訓練の実施と検証

本計画における自助・共助の推進に向けて、防災訓練を通じて、避難行動や避難所運営等の方法など、特に以下の事項について確認・検証します。

##### 【防災訓練での検証事項】

- ✓ 町会未加入者への参加の呼びかけ、コミュニケーション
- ✓ タイムラインに基づく避難行動の確認
- ✓ 学校管理者、市配備職員との連携方法の確認
- ✓ 避難所の運営体制・ルール・備蓄品の確認
- ✓ 要配慮者や在宅避難者の安否確認、支援行動の確認
- ✓ ボランティア受け入れや炊き出し・物資支給方法の確認
- ✓ 資機材の使用法の指導・教育

#### 6.2 防災意識の普及啓発

- ✓ 回覧板で自助等の情報提供
- ✓ お祭り等での訓練を兼ねた炊き出しの実施
- ✓ 町会イベントの際に、拡大した防災マップを掲示
- ✓ 自主防災組織の活動の紹介

#### 6.3 計画の見直し

- ✓ 役員の引継の際に、計画の説明・見直しを行います。
- ✓ 防災訓練実施後の反省会で計画書の見直しを行います。

## 7. 今後の活動予定

みなさんによる防災に関する話し合いや訓練は継続することが重要です。この計画についても、必要に応じて追加、修正していくことが望まれます。

### (1) 防災訓練など

- ✓ 地区の実情に応じた避難行動のあり方の話し合い
- ✓ 様々な災害に対応できるよう、発災状況や目的を適宜設定した防災訓練の実施
- ✓ 避難所運営にあたってのルールづくりと防災訓練を通じた確認・検証
- ✓ 備蓄品・防災機材の適正管理についての話し合い

### (2) 要配慮者の安全を確保するための取り組みの検討

- ✓ 要配慮者等の安否確認のための情報収集に努める
- ✓ 災害時の連絡方法、支援する人など実行に向けた体制整備

### (3) 日常のコミュニティ・防災活動に関する重点的な活動

- ✓ 防災訓練実施にあたっての幅広い参加の呼びかけ
- ✓ 資機材や備蓄の点検及び整備
- ✓ 災害時、避難時に必要な生活手段の整備
- ✓ 地区防災計画や地区の防災情報の周知・発信

## あとがき

私たちは、気候変動によって災害の激甚化が進む中、自然災害とどう向き合い、どのように災害に強い地域を築いていけばよいのでしょうか。

また、コロナウイルス感染症がまだ収まりません。2019年には9月9日から10月25日までの三度続いた大雨台風による気象状況下で、自宅（郡本地区）裏山の土砂崩落で台風犠牲者が出てしまいました。そこで、自分の命だけでなく、家族や地域の人々の命を守るためには地域全体で防災意識を高めるしかない、ということに気づき行動に出たのでした。

具体的には、ハザードマップを活用して様々なシチュエーション（状況）を想定し、災害時にはどう行動するか、現実感をもって話し合うことができました。その大まかな詳細は以下の通りです。

1. 災害時には、危険な場所にいる人は早期避難することが原則
2. 自分がいる場所が「危険な場所」なのか、市が作成したハザードマップ（被害予想地図）と照らし合わせて判断する
3. 日頃から「助けて」と言える地域コミュニティ  
高齢になり、独居世帯が増えても、困ったときに「助けて」と言える近所付き合い  
最終的には、誰かに「助けて」と言われるリーダーづくり

等々ありますが、私たちが防災に携わる中で感じた事は、地域の人と人との強固な繋がりがこそ、災害に負けない地域社会を築く鍵だと思えてなりません。

様々な情報を得ながら、役員会・各町会・民生委員・児童委員・福祉関係者と定期検討会を実施し、様々な意見を取り入れながら地域の実情に沿った防災計画にまとめ上がりました。今後は、計画書をベースにコツコツと実績を積み上げて、一つ一つの課題を解決しながら、安全安心な地区を作っていきたい。

結びに、防災計画とりまとめまで、ご指導ご協力を頂いた町会役員・地域の方々、市担当の方々に感謝と今後の防災計画推進へのご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

M・E

■発行日：令和5年3月31日

■発行主体：市原小学校区地区防災計画策定委員会

■計画案策定に関わった団体

市原小学校区小域ネットワーク・本計画対象地区の各町会及び民生委員児童委員・市原市青少年相談員市原支部・市原市消防団市原支団・市原小学校・市原小学校 PTA・市原中学校・市原中学校 PTA・千葉県立市原緑高等学校・市原市地域包括支援センターふるさと・市原市社会福祉協議会

■検討会議の経過

- ・令和2年11月14日 地区防災計画検討会議第1回ワークショップ  
(災害対応3：3：3を考える)
- ・令和4年7月16日 地区防災計画検討会議第2回ワークショップ  
(安否確認・避難誘導)
- ・令和4年8月27日 地区防災計画検討会議第3回ワークショップ(避難所運営)
- ・令和4年9月17日、10月16日、11月13日、1月14日 計画策定委員会

# 巻末資料

## 令和2年実施 アンケート結果

# 市原小学校区 地区防災計画WS用アンケート集計結果

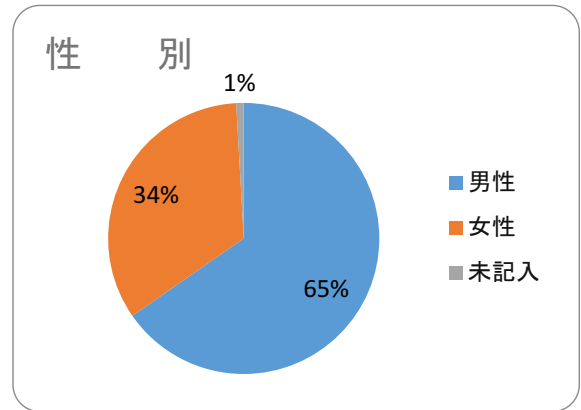
## 【基本情報】

N = 225

性別	男性	女性	未記入	計
	147	76	2	225
	65.3%	33.8%	0.9%	100.0%

現在お住まいの地域に何年お住まいですか	平均38.7年間
---------------------	----------

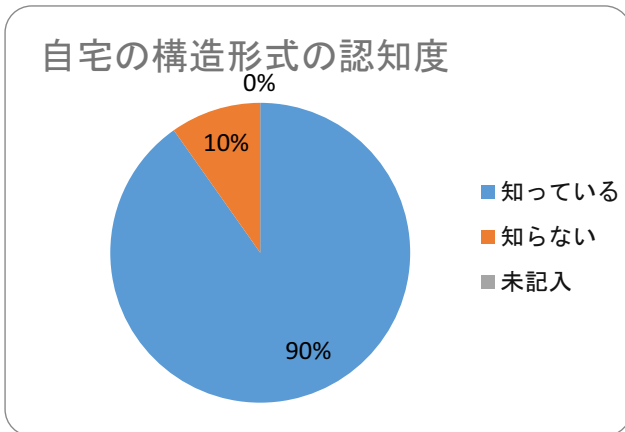
※未記入は含まない。(221件)



## 【住宅について】

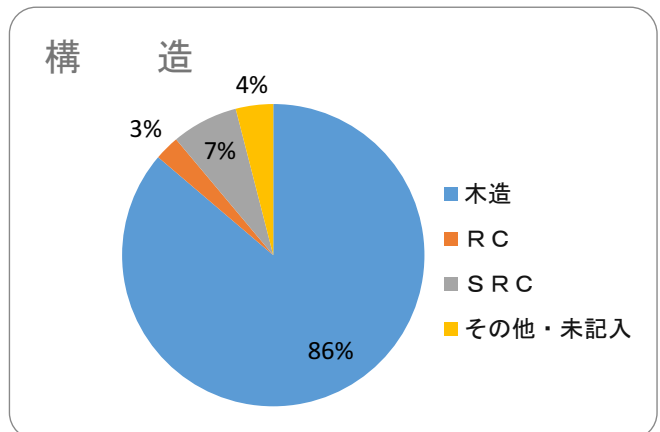
### ① 自宅の構造形式を知っていますか

知っている	知らない	未記入	計
203	22	0	225
90.2%	9.8%	0.0%	100.0%



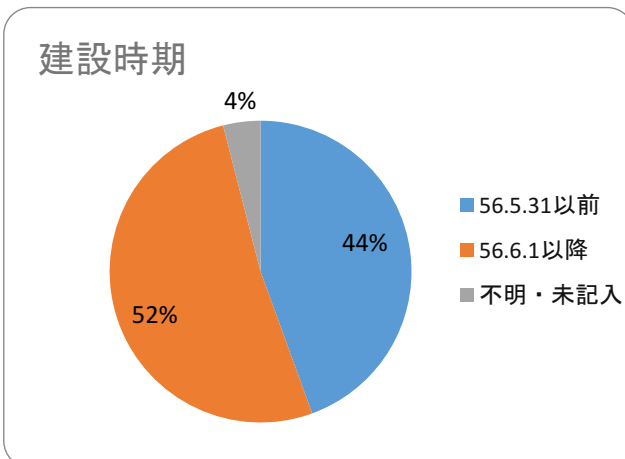
### ② 構造形式

木造	RC	SRC	その他・未記入	計
194	6	16	9	225
86.2%	2.7%	7.1%	4.0%	100.0%



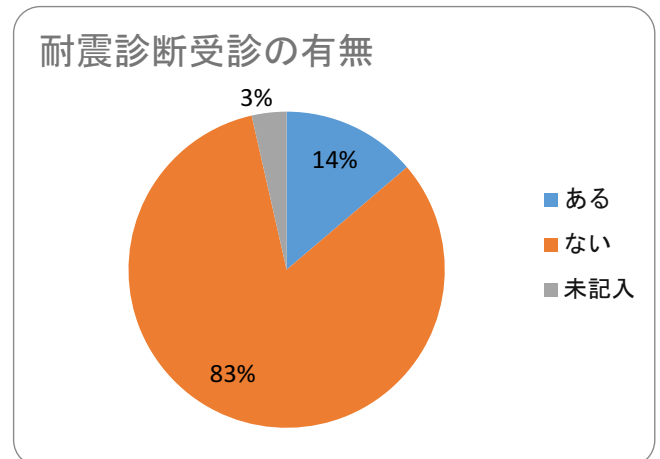
### ③ 自宅が建造されたのはいつですか

56.5.31以前	56.6.1以降	不明・未記入	計
100	116	9	225
44.4%	51.6%	4.0%	100.0%



### ④ 耐震診断受診を受けたことがありますか

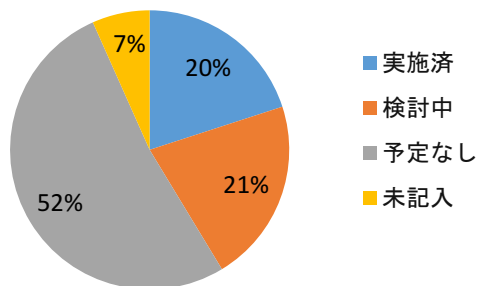
ある	ない	未記入	計
31	186	8	225
13.8%	82.7%	3.6%	100.0%



⑤ 耐震改修は実施済みですか

実施済	検討中	予定なし	未記入	計
45	48	117	15	225
20.0%	21.3%	52.0%	6.7%	100.0%

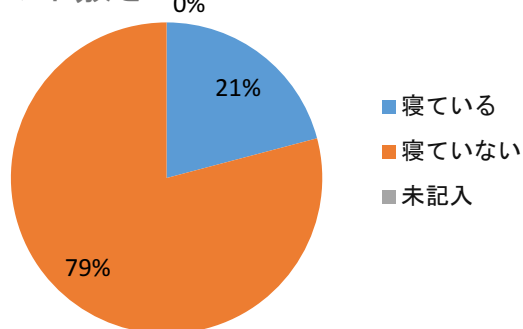
耐震改修の実施状況



⑥ 家具の下敷きになるような位置で寝ていませんか

寝ている	寝ていない	未記入	計
47	178	0	225
20.9%	79.1%	0.0%	100.0%

家具の下敷き

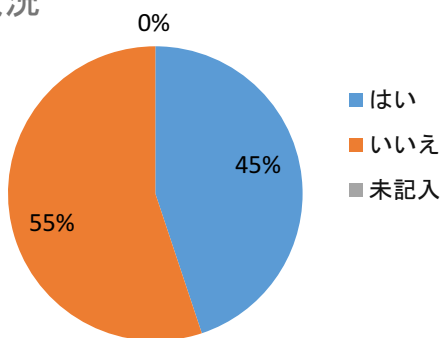


【自宅の備えについて】

⑦ 大型家具の転倒防止策を取っていますか

はい	いいえ	未記入	計
101	124	0	225
44.9%	55.1%	0.0%	100.0%

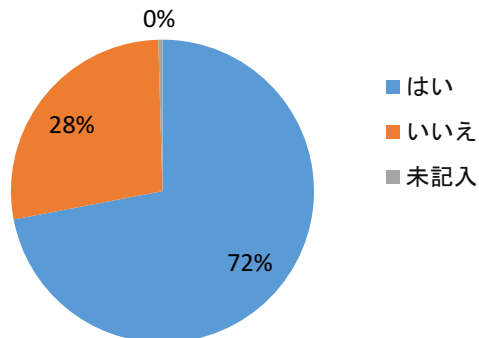
大型家具の転倒防止措置  
実施状況



⑧ 棚やタンスの上から重いものが落ちてこないようにしていますか

はい	いいえ	未記入	計
162	62	1	225
72.0%	27.6%	0.4%	100.0%

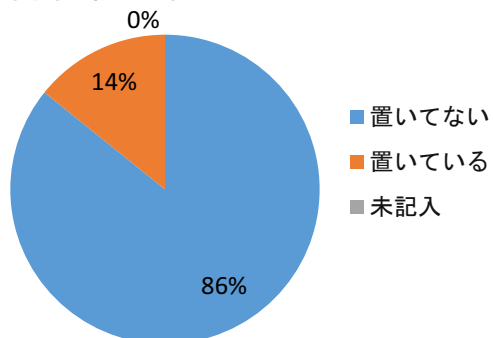
落下防止措置 実施状況



⑨ 玄関などに避難の障害となるものを置いていませんか

置いてない	置いている	未記入	計
193	32	0	225
85.8%	14.2%	0.0%	100.0%

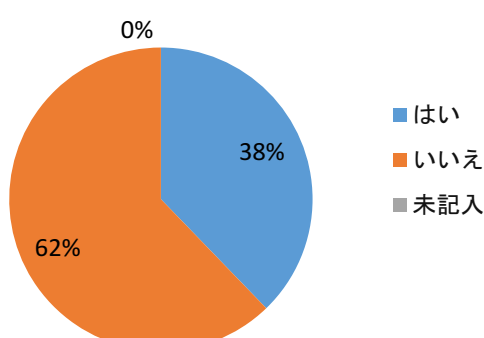
避難の障害物の有無



⑩ すぐに避難できるように寝室にスリッパや靴等履物を用意していますか

はい	いいえ	未記入	計
85	140	0	225
37.8%	62.2%	0.0%	100.0%

履物の用意の有無



⑪ 備蓄食料や飲料は何日分備えてありますか

回答者	201	人
備蓄日合計	705	日

平均日数	3.5	日
------	-----	---

【非常品持ち出し品について】

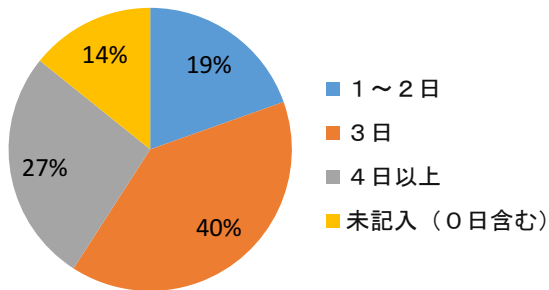
備蓄日数

1～2日	3日	4日以上	未記入(0日含む)	計
44	89	60	32	225
19.6%	39.6%	26.7%	14.2%	100.0%

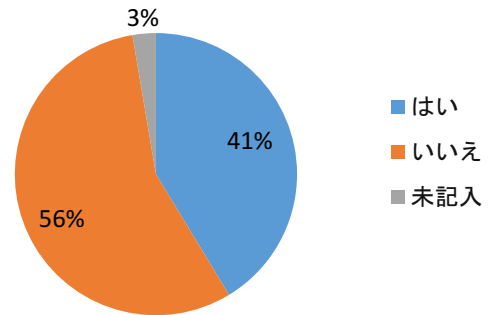
⑫ 非常品持ち出し品をまとめていますか

はい	いいえ	未記入	計
93	126	6	225
41.3%	56.0%	2.7%	100.0%

備蓄日数



非常品持ち出し準備の有無

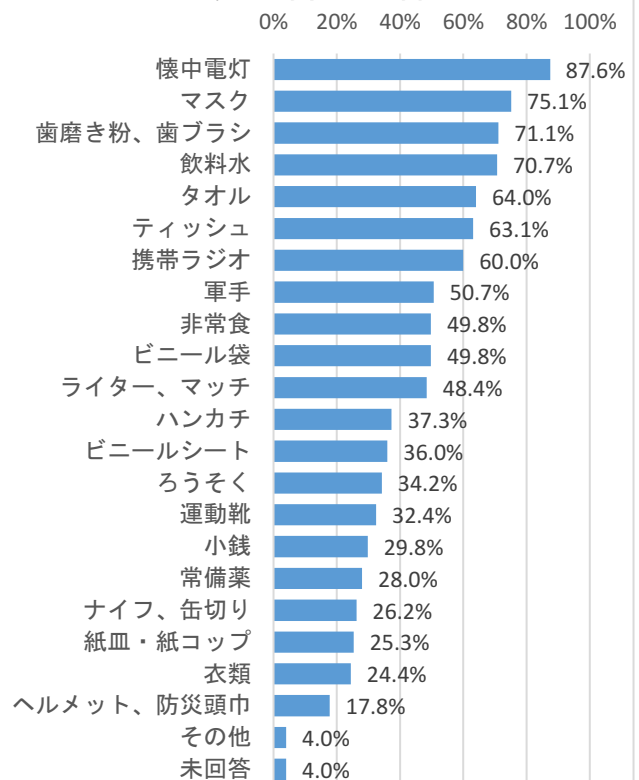


⑬ 非常品持ち出し品として用意しているもの(複数回答可)

非常持ち出し品	件数	割合
懐中電灯	197	87.6%
マスク	169	75.1%
歯磨き粉、歯ブラシ	160	71.1%
飲料水	159	70.7%
タオル	144	64.0%
ティッシュ	142	63.1%
携帯ラジオ	135	60.0%
軍手	114	50.7%
非常食	112	49.8%
ビニール袋	112	49.8%
ライター、マッチ	109	48.4%
ハンカチ	84	37.3%
ビニールシート	81	36.0%
ろうそく	77	34.2%
運動靴	73	32.4%
小銭	67	29.8%
常備薬	63	28.0%
ナイフ、缶切り	59	26.2%
紙皿・紙コップ	57	25.3%
衣類	55	24.4%
ヘルメット、防災頭巾	40	17.8%
その他	9	4.0%
未回答	9	4.0%

※その他としては、携帯トイレ、三角巾や傷薬・絆創膏等の医薬品、バッテリー、テントなどが挙がっている。

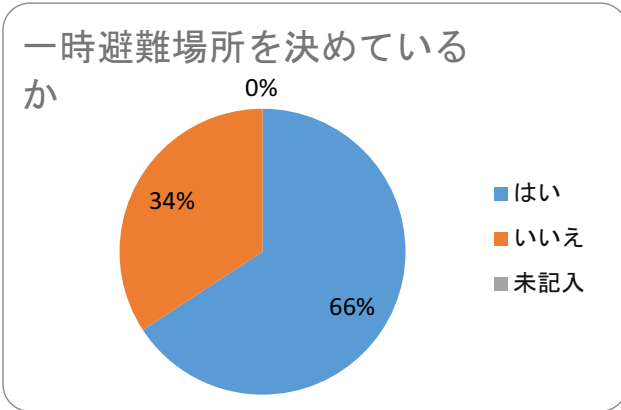
非常持ち出し品



【避難について】

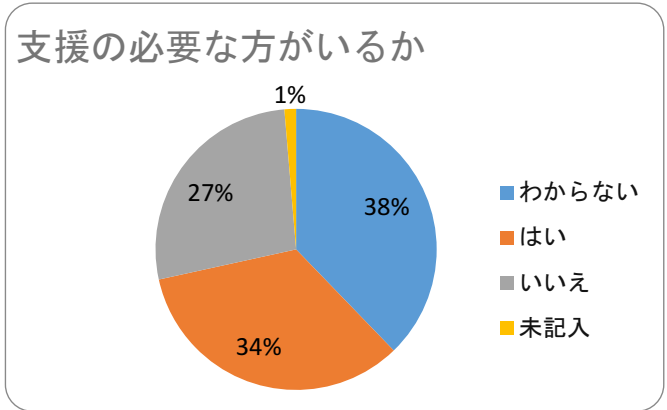
⑭ 地震・水害時の一時避難場所は決めていますか

はい	いいえ	未記入	計
148	77	0	225
65.8%	34.2%	0.0%	100.0%



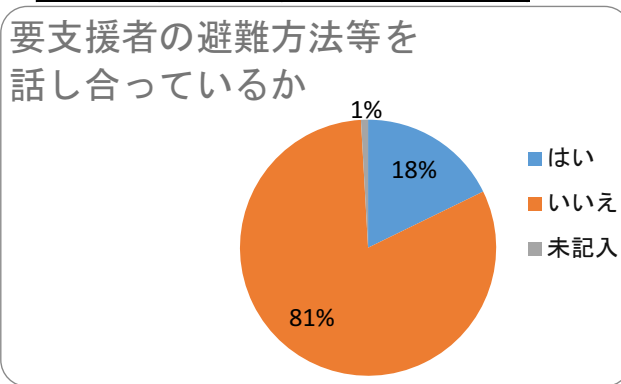
⑮ ご家族・ご近所に災害時(避難や避難生活)に支援が必要な方はいますか

わからない	はい	いいえ	未記入	計
85	76	61	3	225
37.8%	33.8%	27.1%	1.3%	100.0%



⑯ 災害時に支援が必要となる人の避難方法や支援等について話し合っていますか

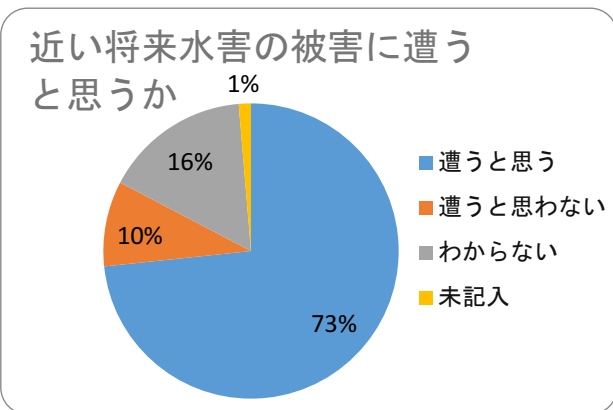
はい	いいえ	未記入	計
40	183	2	225
17.8%	81.3%	0.9%	100.0%



【防災に関する意識について】

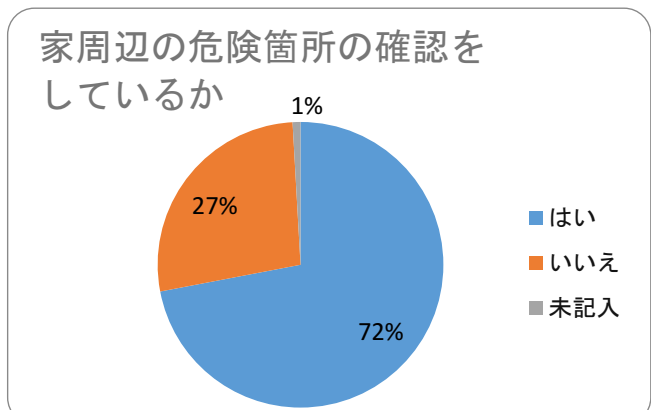
⑰ あなたは近い将来風水害の被害に遭うと思いますか

遭うと思う	遭うと思わない	わからない	未記入	計
165	21	36	3	225
73.3%	9.3%	16.0%	1.3%	100.0%



⑱ 家の周辺の危険箇所を確認していますか

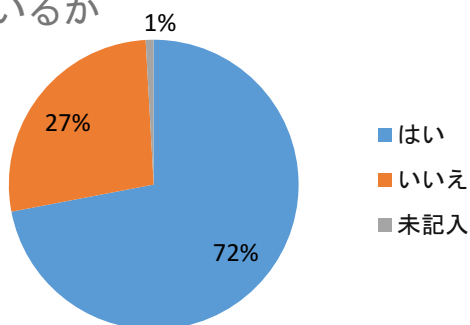
はい	いいえ	未記入	計
162	61	2	225
72.0%	27.1%	0.9%	100.0%



⑱ 家の周辺の用水路の箇所を確認していますか

はい	いいえ	未記入	計
158	64	3	225
70.2%	28.4%	1.3%	100.0%

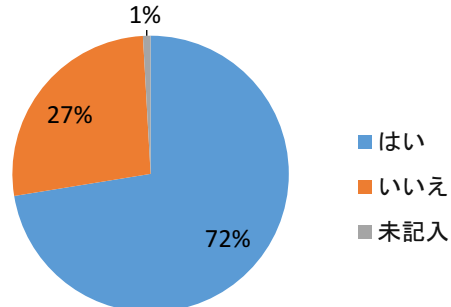
家周辺の用水路の箇所の確認  
をしているか



⑳ 市が出す「避難準備・高齢者等避難開始」・「避難勧告」・「避難指示」の意味を知っていますか

はい	いいえ	未記入	計
163	60	2	225
72.4%	26.7%	0.9%	100.0%

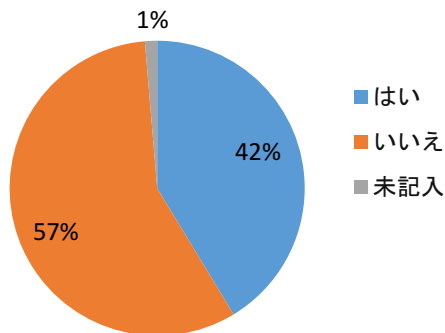
避難通達の意味を知っている  
か



㉑ 市が出す「避難準備・高齢者等避難開始」・「避難勧告」・「避難指示」が伝達される経路や方法を知っていますか

はい	いいえ	未記入	計
93	129	3	225
41.3%	57.3%	1.3%	100.0%

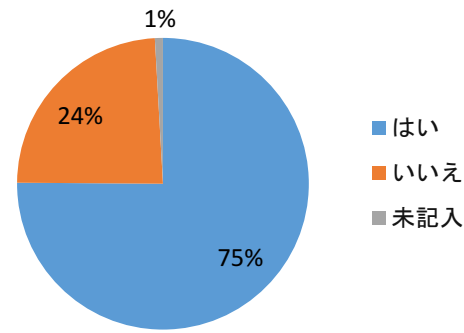
避難通達の伝達方法を知って  
いるか



㉒ 市が配布している「市原市防災マップ」を確認しましたか

はい	いいえ	未記入	計
169	54	2	225
75.1%	24.0%	0.9%	100.0%

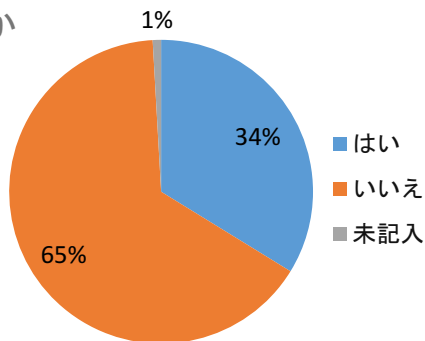
防災マップを確認したか



㉓ 市が提供している情報配信メールサービス「市原市情報配信メール」を登録していますか

はい	いいえ	未記入	計
76	147	2	225
33.8%	65.3%	0.9%	100.0%

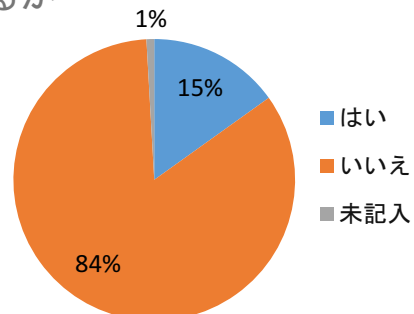
市原市情報配信メールを登録  
しているか



㉔ 家族全員が災害伝言ダイヤル「171」の使い方を  
知っていますか

はい	いいえ	未記入	計
34	189	2	225
15.1%	84.0%	0.9%	100.0%

災害伝言ダイヤルの使い方を  
知っているか

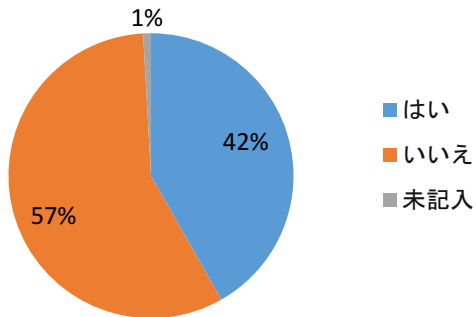


【町会・自治会、自主防災組織、小学校区について】

②④ 町会・自治会、自主防災組織の緊急時の連絡網を知っていますか

はい	いいえ	未記入	計
94	129	2	225
41.8%	57.3%	0.9%	100.0%

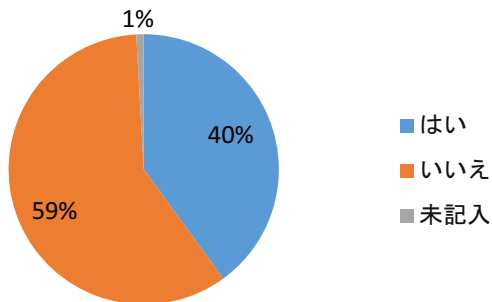
緊急連絡網を知っているか



②⑤ 町会・自治会、自主防災組織または校区の防災マップを持っていますか

はい	いいえ	未記入	計
90	133	2	225
40.0%	59.1%	0.9%	100.0%

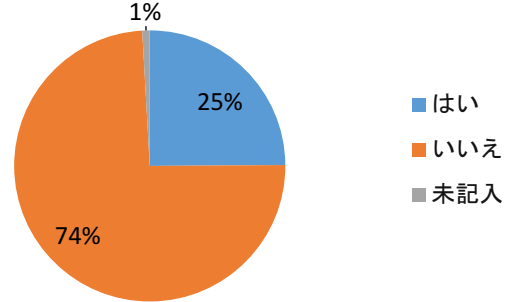
防災マップを持っていますか



②⑥ 市が提供している「地域による避難所開設・運営マニュアル」を御存知ですか

はい	いいえ	未記入	計
56	167	2	225
24.9%	74.2%	0.9%	100.0%

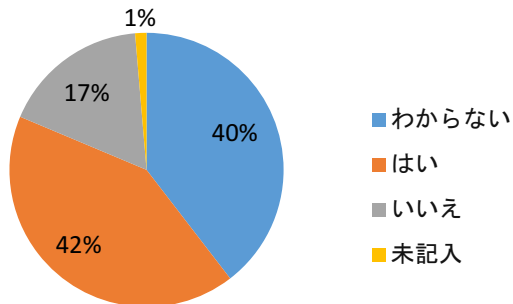
避難所マニュアルを知っているか



②⑦ 災害時あなたが部屋の中で自力で動けなかったら、助けてくれる人はいますか

わからない	はい	いいえ	未記入	計
89	94	39	3	225
39.6%	41.8%	17.3%	1.3%	100.0%

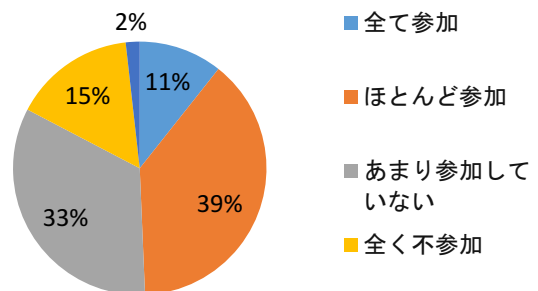
助けてくれる人はいるか



②⑧ あなた若しくは家族は、町会・自治会、自主防災組織や学校の行事に参加していますか

全て参加	ほとんど参加	あまり参加していない	全く不参加	未記入
24	87	75	35	4
10.7%	38.7%	33.3%	15.6%	1.8%

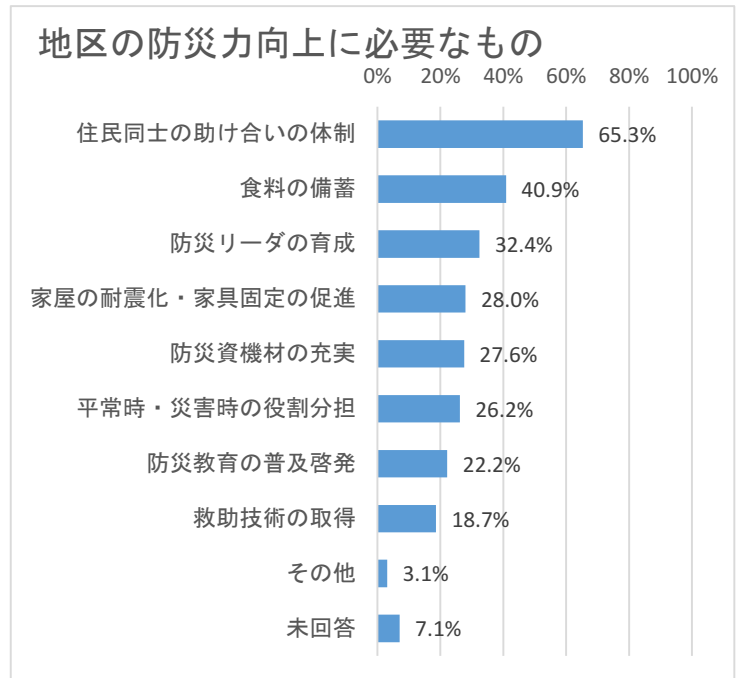
行事への参加状況



③ 地区の防災力をますます向上させるために必要だと思うことはなんですか

選択肢	件数	割合
住民同士の助け合いの体制	147	65.3%
食料の備蓄	92	40.9%
防災リーダーの育成	73	32.4%
家屋の耐震化・家具固定の促進	63	28.0%
防災資機材の充実	62	27.6%
平常時・災害時の役割分担	59	26.2%
防災教育の普及啓発	50	22.2%
救助技術の取得	42	18.7%
その他	7	3.1%
未回答	16	7.1%

※その他として、消防団員の確保や避難訓練の実施が挙げられている。



【意見・感想】

1	町会の住民にも入れ代わりがあるので防災情報を毎年周知するとともに、防災リーダーとなって活動できる人材の確保と任命(期間を決めて)が大切であると思う。地域に平日もいる方が好ましいが、年令もなるべく若い方を募って活動できるよう条件整備が必要であると思う。
2	・自宅の防災レベルを各家庭で認識しておく。 ・個人情報について云われている現状に要支援者を誰が把握しておくべきか。活動は町会etcの任期が終わった後にはたして対応できるのか。各個人、家庭が自助対応を十分認識する事が重要であると考え。
3	市原市は災害が少なく、自分が知っている限り昭和45年7月1日の水害養老川が氾濫。その後、高滝ダムが完成したが、今後地震災害があるかも知れない。もっと住民の意識を高める必要があると思います。災害があった場合、地域地区ごとになにが必要か考えるべきです。
4	このアンケートは、社協:連合長会・市他どの組織が担当か不明です。
5	・R297交差点から市原小への通路が大雨時通行不能? ・郡本会館の避難時の防災及び食糧の備蓄は? ・停電・断水時の対策は?
6	・避難所へ行けない人はどうしますか。 ・防災放送が聞こえません。 ・小・中学校手前の低地は安全なのでしょうか。
7	近くに家族の住んでいない家があるが台風19号(昨年)のときカワラが飛び車にキズが入った。放置(空き家)かお香が災害の原因になるのでは。 ※我家もそのうち(人ごとではないが)
8	災害がないことを祈るばかりですが、リスク管理は大事なこと。携帯電話の充電できる体制も必要。
9	・防災放送の聞こえが悪くなった気がする(今年の台風より) ・公民館などの避難所は駐車場等の地下に浄化槽等を埋め込み、大人数対応の特設トイレが準備できるように改築してほしい。仮設トイレは災害時には体調を崩す人が増えて衛生的に使用できなくなる。 ・大雨時の雨水処理能力を調査して排水設備を改善してほしい。特に坂の多い地域なので坂下は早めに。 ・避難所の耐風圧、水密性は、どの位なのか?特に開口部は風速50m/sに耐えられるのか?
10	迅速な復旧態勢を望む
11	道路整備をしてほしい
12	1人居いの老人が増えている為、相互協力の体制が必要と思います。
13	各家庭に、防災に備えるために必要な用品や備蓄材、食料等をわかりやすく、パンフレットやフローチャートで示すようにする啓発物を行政ができるだけ多くの機会を持ち配布するよう努める。

14	教育又指導等の機会を増やす。
15	(不参加)です。
16	組織を出来る限り少数のグループに重視する必要があると思います。(総べてに有利にことが進む)
17	いつも市の情報無線放送の声が聞きづらいです。
18	地域の自主防災をみてもかかわっている人達は高齢者ばかり。経験は大事なことです。身体に多少の不具合を持つようになり、何か事が起こっても自分の体を動かすことで精いっぱい、人の事どころではありません。若い方達の力を取り込んで行かないと防災なんてできないと思います。(あくまで自分個人の思いです。)
19	家屋等の被害にあった時の修理業者の紹介をしてほしい。
20	市の防災無線のアナウンスが聞きとれない。うるさいと思う人もいるだろうが増やしてほしい。 スマホを持っている人はいいですが老人は持っていないので(今回テレビが電気がつかなく情報が得られなかった)
21	1町会役員も高齢者で住民同士の助け合い(自助・共助)には、無理がある 2発電(携帯用)設備を市の方で充実してほしい
22	年齢が年齢なので92歳、85歳皆様の集まりにはどうも参加はむづかしくてテレビ等の配信で勉強しています。いつか我身にふりかかって来るといつも考えてますので頭の中に入れてます。
23	大きな災害に会うと防災を意識する人が多いが半年、1年たつと忘れてしまう人が多い。昨年大きな災害にあったが住民の意識はうすれてきている様に感じる。特にコロナの為住民同士の会話の機会が少なくなりコミュニケーションが取れていない。これも災害の1つと思う。
24	高齢者が多くを占めている町会では、電話やメールでの連絡が難しく、いかに迅速に情報を伝えるかの課題があります。
25	洪水の対策を早くしてもらいたい。 洪水の工事を着工してもらいたい。
26	大災害時を想定した避難対策(地区毎のルート、対策、訓練)の実施
27	近くに避難所がない。市原・中学校では遠すぎる。
28	千葉県防災コーディネーター講座を受講し、防災コーディネーターとなりましたので、防災の意識は常に持っているつもりです。しかし、常に変化していますので、追従する意識を持ち続けたいものです。
29	緊急避難場所の再点検が必要と思います
30	大規模停電対策助成が有ると良い。発電機、インバーターetc。
31	防災用品は幾つかに分けて1F2Fとしてある。しかし共に足の悪い年寄りがリュックを担いで避難するのは無理がある

## 【講 評】

- アンケート回答者は、地域に住んで平均38.7年と昔から住んでいる方が多い。
- 自宅は木造が多く、建造時期は旧耐震である昭和56年以前の方が4割以上と多くなっている。また、耐震診断を受診している割合が14%と低く、耐震性が確保されていない住宅が存在している。
- 家具の下地になる場所で寝ていない、落下防止対策をしている、避難の障害物となるものは置いていないなどの予防対策をしている割合は7割以上と高いが、家具転倒防止、履物の用意、非常持出し袋の準備等の予防対策をしている割合は半数を切っている。
- 備蓄に関しては、平均日数が3.5日と3日以上になっている。ローリングストックすることで1週間くらい確保できるとよい。品物としては、懐中電灯、マスク、歯ブラシ、飲料水が多く、運動靴やヘルメット・防災頭巾など震災時の避難準備が少ない。
- 避難について、一時避難場所を決めている割合は66%となっている。要支援者の把握、支援の話し合いについては、あまりできていないことがうかがえる。
- 防災意識については、水害について高く、被害にあうと思っており、家の周囲の危険箇所確認、用水路の箇所、避難勧告などの意味認知度が高くなっている。一方で、伝達方法や市配信メールの登録、災害伝言ダイヤルの使い方等の認知度は低く、情報ツールの紹介や利用方法の周知が必要である。
- 町会の活動については、町会の緊急連絡網や防災マップ、避難所マニュアルなどの認知は低く、行事への参加も「すべて参加する」と「ほとんど参加」を合わせても半数にとどまっている。一方で、地区の防災力向上に必要なものでは「住民同士の助け合いの体制」が最も多く、コミュニティの重要性は高く認識されている。